

服飾から福祉 紡いだ「江陵」

地域に人材 交流も盛ん

閉校に寄せて

幕別の教育力向上へ決断



学校法人多田学園 多田圃一理事長
江陵高等学校閉校並びに学校法人多田学園解散に当たり、創立以来、本学園にご支援、ご協力を賜りました皆さまに心から厚くお礼を申し上げますとともに、深く感謝を申し上げます。

江陵高等学校は昭和31(1956)年2月、北海道知事から学校法人の認可をいただき、池田女子高等学校を創立、その後池田西高等学校、江陵高等学校と校名は変わりましたが、65年間の要請に応えつつ地域の発展と青少年教育の一端を担ってまいりました。

最後にありますが、本学園の運営にご支援をいただきました役員皆さま、本校の教職員の皆さま、卒業生並びに保護者の皆さまに、心から感謝を申し上げておきたいとします。65年間、ありがとうございました。

校を残したい」との趣旨から、町内にある道立特別高等学校と本校の再編協議の申し入れがあり、地域の教育力の向上、中等教育機関の確保など、さまざまな観点から検討し、申し入れを受け入れた次第であります。

本校と道立特別高等学校との再編によって誕生した北海道幕別清陵高等学校が令和元(2019)年に開校し、今、本校の校舎の中で活動を始め、私立と公立の高等学校が同居生活をするという、全国的にも例を見ないことが実践されています。

江陵高等学校は閉校しますが、6614名の卒業生が各界で活躍している姿を思うとき、複雑な思いもありますが、新しい期待を背負い誕生した幕別清陵高等学校が、その使命を果たしてくれることに期待を寄せるところであります。

最後にありますが、本学園の運営にご支援をいただきました役員皆さま、本校の教職員の皆さま、卒業生並びに保護者の皆さまに、心から感謝を申し上げておきたいとします。65年間、ありがとうございました。

伝統や理念、幕別清陵高校へ



江陵高校 若宮栄校長
本来であれば、令和2(2020)年度は本校の締めくくりの一年であり、3年生は学校祭や体育大会、高文連大会・高野連大会等において思う存分に普段の練習の成果を発揮して、活気ある学校生活を送るはずでありました。しかし、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、スポーツの祭典である東京オリンピックさえも延期となりました。予定しておりました閉校式典も規模の縮小と卒業式に合わせた開催となりました。

江陵高校が閉校65年の歩みと輝かしい歴史と伝統を築く中、発展的な再編統合のため学園の歴史に幕を下ろすこととなりました。65年間、池田町・幕別町の多くの地域の方々や関係各位の皆さまに温かいご支援とご協力をいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

本校は昭和31(1956)年には学校法人多田学園池田女子高等学校の設置が許可され、家庭科被課程の女子高校として発足することになり、ここが高等学校教育の出発点となりました。

昭和39(64)年には校名を池田西高等学校と改称しました。学科については、普通科、家庭科(後の被服科)が設置され、ピーク時の昭和41(66)年には両科を合わせて666名の在籍数でありました。

昭和60(85)年には、少子化等を背景に幕別町に移転し、現在の江陵高等学校として発展を遂げることとなりました。平成17(2005)年には福祉コースを新たに設置して現在は福祉科として地域に定着しています。クラブ活動は野球、アイスホッケー、バドミントン、女子バレーなどが全道大会、全国大会で活躍しました。とても活気のある学校として現在に至ることとなりました。

過疎化や少子高齢化等の多くの課題を抱えた中で、江陵高校が閉校65年の歩みと輝かしい歴史と伝統を築く中、発展的な再編統合のため学園の歴史に幕を下ろすこととなりました。65年間、池田町・幕別町の多くの地域の方々や関係各位の皆さまに温かいご支援とご協力をいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

本校は昭和31(1956)年には学校法人多田学園池田女子高等学校の設置が許可され、家庭科被課程の女子高校として発足することになり、ここが高等学校教育の出発点となりました。

介護現場支えた専門科 技術と心磨き就職率100%

江陵高校(若宮栄校長、生徒103人)は、月未だ65年の歴史を閉じ、福祉科を位置づけ、前身の福祉科時代から、十勝の福祉中心とした介護現場へ多くの人材を輩出してきた。「福祉」の開設は、少子化が進んで全学者の課外活動が減少し、1期担任を務めた田代浩司(こうし)校長は「一期生として27人を送り出した。福祉科の開設は、少子化が進んで全学者の課外活動が減少し、1期担任を務めた田代浩司(こうし)校長は「一期生として27人を送り出した。福祉科の開設は、少子化が進んで全学者の課外活動が減少し、1期担任を務めた田代浩司(こうし)校長は「一期生として27人を送り出した。」



新型コロナウイルス感染防止のため臨時休校が続く中、分散登校で徐々に級友と再会し、笑顔を見せる生徒(5月)

最後の夏 白球懸命に 全国に名刻んだ運動部



運動部の部活動は男女合わせて最大は約400人。このうち最後の夏は、3年生が残り、最後の練習試合が行われ、多くの選手が涙を流した。最後の練習試合は、対戦相手は、かつてのライバル、池田西高等学校と対戦し、結果は敗戦となった。多くの選手が涙を流した。最後の練習試合は、対戦相手は、かつてのライバル、池田西高等学校と対戦し、結果は敗戦となった。多くの選手が涙を流した。



20年以上にわたる取り組みが結実した。福祉科の開設は、少子化が進んで全学者の課外活動が減少し、1期担任を務めた田代浩司(こうし)校長は「一期生として27人を送り出した。」

リングプル回収、催し参加も

同様に20年以上にわたる取り組みが結実した。福祉科の開設は、少子化が進んで全学者の課外活動が減少し、1期担任を務めた田代浩司(こうし)校長は「一期生として27人を送り出した。」



そろいのジャンパーを身に付け、バス停前の除雪作業に汗を流す。地域から多くの感謝の声が寄せられた。(2017年)

学校法人 多田学園65年の歩み 沿革/年表

昭和21年4月	池田町学大通り1丁目70番地に池田製菓製菓学院を創立。
昭和24年1月	北海道の認可を受ける。
昭和27年11月	池田製菓製菓学院を改称、財団法人池田製菓学院と改称。
昭和31年1月	学校法人池田女子高等学校を継承し、学校法人池田女子高等学校とする。
昭和31年9月	学校法人池田女子高等学校を継承し、学校法人池田女子高等学校とする。
昭和32年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和33年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和34年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和35年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和36年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和37年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和38年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和39年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和40年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和41年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和42年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和43年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和44年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和45年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和46年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和47年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和48年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和49年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和50年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和51年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和52年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和53年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和54年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和55年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和56年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和57年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和58年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和59年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和60年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和61年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和62年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和63年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和64年9月	第1期卒業式式典挙行。
昭和65年9月	第1期卒業式式典挙行。

校歌

作詞 野野 良則
作曲 田代 廣和

日高の 高き山脈を
仰げば 遙か風光る
拓きし 丘の学び舎よ
心けだかき 若人の
理想に 燃ゆる我が母校
永遠に 輝くあゝ、江陵

十勝の 流れ清らかに
歌えば 望み陽に映えて
緑の 丘の学び舎よ
瞳さやかな 若人の
希望に 燃ゆる我が母校
永遠に 輝くあゝ、江陵